



南十字星



2020年度 第5号

令和2年5月30日

クイーンズランド補習授業校

ブリスベン校

校長 直塚 裕典

E-mail : hoshuko@jc-b.com

第一学期終了を二日早めました！



保護者の皆様、今日で一か月が過ぎようとしています。5月当初は、学習の基盤となる学級づくりを中心とした担任と児童生徒とのコミュニケーションを図りながら、可能な範囲でオンラインまたはメール等による学習サポートを行ってまいりました。この一か月を振り返ってみると、子ども達からは、「早く友達に会いたい。」、保護者の皆様からは、「慣れない環境で親子ともががんばっていますが、少し疲れました。」などの声も上がっていました。そこで、補習校の特性を鑑みた場合、このままの継続は好ましくないと判断し、5月25日付け文書でお伝えしましたように、6月13日で第一学期終了日といたします。

第二学期の始まり予定である7月11日に向けて、補習校として事前の準備や環境づくりを進め、児童生徒が安心して安全に迎えらるるよう着々と整えているところです。今後ともご理解とご協力のほど、よろしくお願いいたします。

～見つけたよ！ ちょっといい言葉！～

○「笑い」があふれる家庭こそ幸せ。

「笑い」には、心を元気にしたり、

なごませたりする力があります。

一日一回は、笑いましょう！



「校長のちょっと独り言」です！

☆☆☆ ドイツに日本の桜の花が咲いているのを知っていますか？ ☆☆☆

私が以前、ドイツに住んでいた時に「肥沼信次氏を知っていますか」と尋ねられたことがありました。私はその時知らなかったので、「知りません」と答えたのを今のように覚えています。

肥沼信次氏は、第2次世界大戦前の1937年にドイツに渡ったお医者さんでチフスに苦しむ人々の治療に関わり、自分のことより他の人の治療を優先するために医薬品を走り回って調達し、たくさんのドイツの人の命を救った人です。私がいた当時は、日本の桜の花がドイツのある町（リーツェン）に咲いていました。なぜ、ドイツの田舎町に桜が咲いているのでしょうか。それは、チフスの治療をしていた自分もチフスの病にかかり、ベッドの上で「日本の桜が見たい」とつぶやいて亡くなったそうです。それを聞いた人が、わざわざ日本から桜の花を取り寄せ、植えたそうです。また、肥沼氏のお墓がドイツにあり、今でも彼を慕ってお墓参りをしている人がいると聞いています。

今、世界は新型コロナウイルスで困っている人がたくさんおられます。子ども達には、今できることを地道に取り組み、それから幅を広げてほしいと思います。

○「教育とは何でしょうか」・・・子どもが夢をもち、やがてその夢を目標とし、実現のために支援をしていく、時代の如何にかかわらず、教育とはそのようなものではないでしょうか。

子ども達の作文や日記等を紹介します～素直な気持ちが伝わってきますね！

(小学2年生 山田結詠さん)

わたしは「天気の子」を見ました。おとうさんとおかあさんともうと見ました。とてもおもしろかったです。「天気の子」は雨がふっているときに、お日さまを出してくれる女の子です。みかんをたべて、見ました。

(小学2年生 上村海翔)

きょうは、あさゆっくりおきて、パンケーキをつくるのをてつだいました。こむぎこ、たまご、ぎゅうにゅうをまぜて、フライパンにに入れてやきました。ぼくは、きじをおたまでフライパンに入れるおてつだいをしました。フライパンにさわらないように気をつけました。小さいのや大きいのやいろいろなかたちができるおもしろかったです。

(小学2年生 佐川天祐さん)

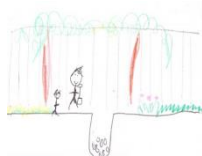
きょうのあさ、カラワサパークでぼくとたかのどうじょうのみんなで空手のれんしゅうをしました。さいしょは、すごくさむくてふるえていました。でもうごいているうちにだんだんあつくなってきました。かたのれんしゅう中に、「すごくカブよいね。」と先生にほめられました。ぼくはすごくうれしかったです。つぎのれんしゅうもがんばろうと思いました。

(小学2年生 マーティンサミュエルさん)

土曜日のあさ、とてもさむかったので火をつくりました。まず、ぼくとおとうさんは、ぼくの家のおにわでちょうどいい木を見つけました。そして、木をだんろに入れました。そのあと、かみに火をつけて木をその上において火をつくりました。さむかったけどあたたかくなりました。

(小学3年生 ピットコナーさん)

今日、お父さんがにわをほったらカブトムシのようちゅうがたくさん出てきました。お母さんが「ようちゅうをそだててみたら？」と言ったのでぼくはそだてて見る事にしました。カブトムシになるのを見るのが楽しみです。



(小学3年生 鈴木ハンダーソンリーラさん)

今日は、ホームスクールがおわってからお母さん、お姉ちゃんと弟と妹とお買い物に行きました。自分のおこづかいで、キャンディーキッズを買いました。帰って来てから、キャンディーキッズのお人形で妹といっしょにあそびました。妹といっしょにあそべるようにえらんだのでよかったです。



(小学3年生 ヒートン千歳さん)

こないだ、わたしはうみにいききました。わたしは弟と石をうごかして、はんたいがわのしまにはしをつくりました。弟のパンツが水びたしになってかえりそうになりました。くつぬいで走りました。わたしのドレスの下の方がぬれました。かえりに石をのぼりました。おちそうになった時もありましたが、おちなかつたです。車の中がぬれててちびっとおこられました。すごく楽しかったです。



(小学3年生 吉川滉之介さん)

ぼくは、この前自てん車をのりに行きました。自てん車は日本にいる時に練習しといたので、買ったばかりのころからのれました。ぼくの友だちが自てん車にのってるから、ぼくものりたいとおもって買いました。それでヘルメットはいろんなしゅるいがありましたが頭の大きさをかんがえると中ぐらいのサイズをえらびました。色はみどりと黒です。自てん車はひさしぶりにのったらはよかった。



子ども達の作文を紹介します～素直な気持ちが伝わってきますね！～（続き）

中学3年生が国語の教科書『握手』（井上ひさし著）を読んで、自分の考えをまとめています。

一部、ご紹介します。

（中学3年生 クリーシー希美那さん）

この作品の良さは、登場人物のルロイ修道士の人物像を通して優しさや思いやりの大切さを伝えているところだと思います。ルロイ修道士は自分の過去の出来事にとらわれず、日本人を恨んだり憎んだりするのではなく、人を平等と考え、戦後に天使園の園長として働き、子供達の世話をするようになったのが本当の優しさだと思います。私もルロイ修道士のような心の広い人になりたいです。戦争は優しさも生むのかと皮肉に思います。

（中学3年生 コンベンサシャさん）

私はこの作品を読んでルロイ修道士の強い心にひかれた。一つは戦争中に日本人に痛めつけられたにも関わらず、ルロイ修道士は心を曲げず天使園で仕事に務めた。又、自分が病気をしても誰にも明かすことはなかった。ルロイ修道士の言葉は少ないけれど手や指で表現することが多く、とてもインパクトのある作品だった。ルロイ修道士の握手の中にはたくさんの意味がこめられていて、静かで穏やかな修道士の心がこの作品からかいま見れた。

～ちなみに、国語のオンラインサポートをしている中学3年生担任のクリソウド先生は、井上ひさし氏の次の言葉が好きだそうです～

「 むずかしいことをやさしく
やさしいことをふかく
ふかいことをゆかいに
ゆかいなことをまじめに
書くこと 」



<保護者の皆様へお願い>

学校だよりにお子さんの作文や活動の様子などをできる限り掲載したいと思います。その場合、氏名や写真などの掲載で何かありましたら担任までご連絡してください。

なお、学校だよりは、世界に発信しています。



【お知らせ】 校長の動画配信について

（今回は、「吉野ヶ里歴史公園の紹介」です）

① 5月30日8時30分から6月2日17時まで配信中

② URL <https://youtu.be/gDZHTOvkppl>

または、YouTubeの検索で「直塚裕典」を入力しても見られます。



（吉野ヶ里歴史公園）